

ヴリクシャナ・セー・マティ・レー
木々から英知を受け取りなさい

詩聖スールダースによるバジャン

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダ作曲

繰り返し

वृक्षन से मति ले, मन तू वृक्षन से मति ले॥

vṛkṣana se mati le, mana tū vṛkṣana se mati le ||

木々から英知を受け取りなさい。
おお、私のマインドよ、これらの神の現れから英知を受け取りなさい。

第1節

काटे वाको क्रोध न करहीं, सिञ्चत न करहीं नेह॥

kāṭe vāko krodha na karahī, siñcata na karahī neha ||

木々は自らを切り倒す者たちに怒ることなく、
水を与えてくれる者たちを愛することもない。

第2節

धूप सहत अपने सिर ऊपर, और को छाँह करेत॥

dhūpa sahata apane sira ūpara, aura ko chāha kareta ||

木々はその頭上の太陽の焼けつくような熱を耐えながら、
他のものたちには木陰を与える。

第3節

जो वाही को पथर चलावे, ताही को फल देत॥

jo vāhī ko pathara calāve, tāhī ko phala deta ||

自分に石を投げつける者たちにさえも、
木々は自らの果実を与える。

第4節

धन्य-धन्य हे परउपकारी, वृथा मनुज की देह॥

dhanya-dhanya he para-upakārī, vṛthā manuja kī deha ||

このように慈悲深い者は祝福され、
そうでない者は人として生まれたことを無駄にしている。

第5節

सूरदास प्रभु कहँ लगि बरनों, हरिजन की मति ले॥

sūradāsa prabhu kahā lagi baranaū, harijana kī mati le ||

スールダースは言う。神の栄光をどのように言い表せるだろうか、
自然の中にこれほど見事に現われている神の栄光を！
神を知るためには、偉大なものたちから、神に没頭しているものたちから
英知を受け取らなければならない。

グルデーヴ・シッダ・ピートゥのミュージックアンサンブルによる演奏

マーナシー・ジャインによる紹介

16 世紀の詩聖スールダースは、そのバジヤン「ヴリクシャナ・セー・マティ・レー」の中で、樹木
に英知を求めるようにと説いています。彼のバジヤンに込められた説得力のある教えは、2000

年にグルマーイ・チッドヴィラーサーナンダが作曲した、マインドを静め、集中させるメロディーによって美しく強調されています。そして今、2024 年のグルマーイのメッセージの学びと、グルマーイの誕生月であるバースデーブリスのお祝いの一環として、あなたはこのバジヤンを学び、没頭するように招かれています。

このバジヤンを数回聴いただけで、私は一日中歌い続けている自分に気づきました。ある晩、週に一度のハタ・ヨーガのクラスで、私はいつも以上にバランスに苦しんでいました。姿勢の調整をしながら、私はマインドの中で鳴っているこのバジヤンに自分の注意を移しました。繰り返しの低い音は私の意識を足元に向け、地に足が着いていることを感じられるよう助けて、詩の高くなっていく音は背骨がもう少し上に伸びるように促しました。私は強さとしなやかさの両方を感じました。釣り合いが取れた瞬間、私が目を閉じると、心の目には 2024 年のグルマーイのメッセージのアートワークに描かれている堂々とした木々の森が見えました。

スールダースは、彼が生きていた当時、北インドの地方で一般的に話されていたヒンディー語の方言であるブラジュ・バーシャー語で「ヴリクシャナ・セー・マティ・レー」を書きました。スールダースは生まれつき目が不自由で、神への絶大な愛を表現するために詩作に生涯をささげました。このバジヤンでスールダースは、木々が本来持っている英知と寛大さをたたえ、木々を神の現れと表しました。木々は自らの世話をする者に好意を抱くこともなければ、粗末にする者に失望することもないと、この聖人は言います。害をなす者にさえ、木々はその果実を与えるのです。

つまり、木々は感情に動かされず、無条件に寛大なのです。科学者である私は、樹木は自然の相関性の象徴であると考えます。そして、この相関性こそが、スールダースの言う強さを樹木に与えているのです。私たちは木といえば、一般的に幹と枝を思い浮かべますが、しばしばその広く伸びる根を見落としがちです。しかし、この力強い根こそが木を支え、安定と栄養を与え

ています。さらに、根は目に見えない世界の一部であり、木と他の木をつないでいます。樹木の根は心臓のようなものであり、樹木の存在そのものが、その心臓にしっかりと根付いているかどうかにかかっているのです。

さらに、木は太陽の光を求めて成長します。太陽光の輝きは、樹木の物理的成長を導き、その強さを増加させます。そしてこの強さは、樹木が高く成長するのを助けると同時に、樹木の周囲の空気を確実に浄化します。木は太陽光を利用して酸素を生成し、大気中に放出します。そのため、それぞれの木が独自のサイクルで成長することで、私たちの地球にも恩恵がもたらされ、維持されているのです。スールダースは、木々のように周囲の世界に善意を差し出す人は祝福されると言います。私たちは、木々に見られるような英知と美德を培うことで、周囲のためになれるのです。

グルマーイはこのバジャンをレーヴァティー・ラーガで作曲しました。多くのヴェーダの詩とシュローカがこのラーガで朗唱されています。レーヴァティーはマインドを静め、高ぶった感情を払いのけると言われています。このラーガの特質とバジャンの言葉を合わせて受け取り、親切で安定しているように——言い換えれば、木々のようになるように——私たちに促しています。

この「ヴリクシャナ・セー・マティ・レー」の録音は、グルデーヴ・シッダ・ピートウのミュージックアンサンブルによって歌われ、歌詞とその翻訳も含まれています。このバジャンを何度も読み、聴き、熟考し、歌い、暗記することで、その美しさを味わい、その教えを心に根付かせることをお勧めします。

